

お誕生

住所	氏名	性別	保護者
芝原	上田 竜太郎	男	雅之志
仁田	遠山 凜	女	宗浩
横田	坂村 凌	男	浩道
大町	前田 琉之介	男	明次郎
豊内	中川 瑠	女	健孝
糸田	緒方 さくら	女	生樹
安緑	西村 隆寿	男	
	渡邊 菜奈	女	

ご結婚

住所	氏名
糸田	入口 直幸
福岡県	坂井 伸子
熊本市	上野 圭一郎
中横田	宮邊 梓
岩下	佐野 喬美
東寒野	吉野 尚美
玉名市	富岡 文和
豊内	清村 美紀
早川	新木 革
熊本市	那須 綾
西寒野	永野 功也
菊池市	谷本 奈穂
熊本市	榎木 春樹
田口	横井 美晴
横田	田上 真了
熊本市	浦川 いづみ
熊本市	坂口 正治
下横田	本田 直子
美里町	北谷 和寛
中山	大塚 里美

おくやみ

住所	氏名	年齢	世帯主
津志田	西口 あや子	96	孝 節
坂谷	井芹 房夫	89	雄 二
田口	西岡 ハル工	82	秀 俊
麻生原	福田 トキ工	82	トキ工
上早川	田上 正弘	80	明 子
府領	小林 藤枝	95	幸 恵
白旗	田端 光子	90	正 司
糸田	蔵本 健一	66	菊 子
船津	北野 重子	95	強
下横田	上田 深	93	深
坂谷	渡邊 ヤ工子	96	ヤ工子
東寒野	鳴瀬 マサ子	103	幸 一

DATA		
平成22年3月31日現在		
人口・世帯数	増減	
男	5,362	△2
女	6,120	△8
計	11,482	△10
世帯数	4,156	0

(町史編さんだより)

昨秋、編集委員と調査協力委員で緑川の源流から河口まで2日かけて探訪しました。水源の1つである穿(うげ)の洞窟(山都町)は、18世紀末に肥後藩によって作成された『領内名勝図巻』の絵と変わらぬ景観が今も保たれています。ここから川に沿って下り、鶴ノ瀬堰(せき)、釈迦院川との合流点、糸田堰などを経て、嘉島町の御船川との合流点、そして川尻、最後は有明海へ注ぐ河口まで辿(たど)りました。緑川の風景の変化は興趣(きょうしゆ)が尽きないものでしたが、それ以上に引き込まれたのが、同行の田上末年氏(宮内地区調査協力委員)の筏(いかだ)流しの体験談でした。

田上末年氏は、若い頃、緑川で筏を操り、甲佐町から川尻まで材木を運ばれていました。言わば最後の筏流士(いかだながし)のお一人です。近隣の山から伐り出された木材が馬車や軌道式林道のトロッコで運ばれ、西原区の淀淵と呼ばれる大きな淵で筏が組まれました。大きい筏は長さが30メートルを超え、現在の大型ト

『領内名勝図巻』の「穿の洞窟」の絵図



甲佐の歴史を紡いで

～町史編さんだより(20)～

緑川を筏が下っていた頃

町史編集委員 栗谷 昌史 (近代)

ラック3・4台分に相当する木材の量になったとのこと。その長大な筏を1人で操り、夜明け前に出て午後3時頃に川尻に到着するという仕事は、困難で危険なものだったと思います。流れの速い瀬や落差の大きい堰を通る時の苦勞を語られる田上氏のお話は迫力

があり、緑川を筏が流れる情景が目には浮かぶようでした。緑川の筏流しは、昭和25年、九州電力甲佐発電所の塚瀬ダム(美里町)の建設によって終止符が打たれました。江戸時代に舟運が栄えていたことはよく知られています。しかし、明治以降も、舟運は人々の生活にとって大きな役割を果たしました。筏だけでなく、甲佐の米、酒、そして石灰などが和船で川を下り、川尻へ運ばれました。馬車よりも大量に早く物資を運ぶことができたからです。近代においても、緑川は甲佐の人々にとって他の地域とつながる重要な道だったと言えるのです。

▼『甲佐町史』編さんに関するお問い合わせ先  
町社会教育課町史編集係  
☎096・234・3310

編集後記

今月号の表紙は、西寒野にあるケアハウス桜の丘の入居者の皆さんから新入児童への手作り鉛筆立て贈呈のひとコマ。

この鉛筆立ては、日ごろから同施設に子どもたちが訪れて入居者を楽しませてくれることへのお礼として、毎年秋から新入児童の入学祝いとして作成。

牛乳パックを台紙にして、一つひとつ丁寧に心を込めて色鮮やかな和紙で飾り付け。町内各小学校を代表者が訪れて、教室で新入児童全員に一人ひとり手渡しで贈呈します。

贈呈が始まって、今年で7年目。入居者の皆さんは、小学校で元気な児童たちに会えることを楽しみにして、毎年素敵なプレゼントを手作りされています。入居者の皆さんの温かい思いも大切に受け止めて、新入児童の皆さんは小学校生活を楽しくしてほしいですね。(C)